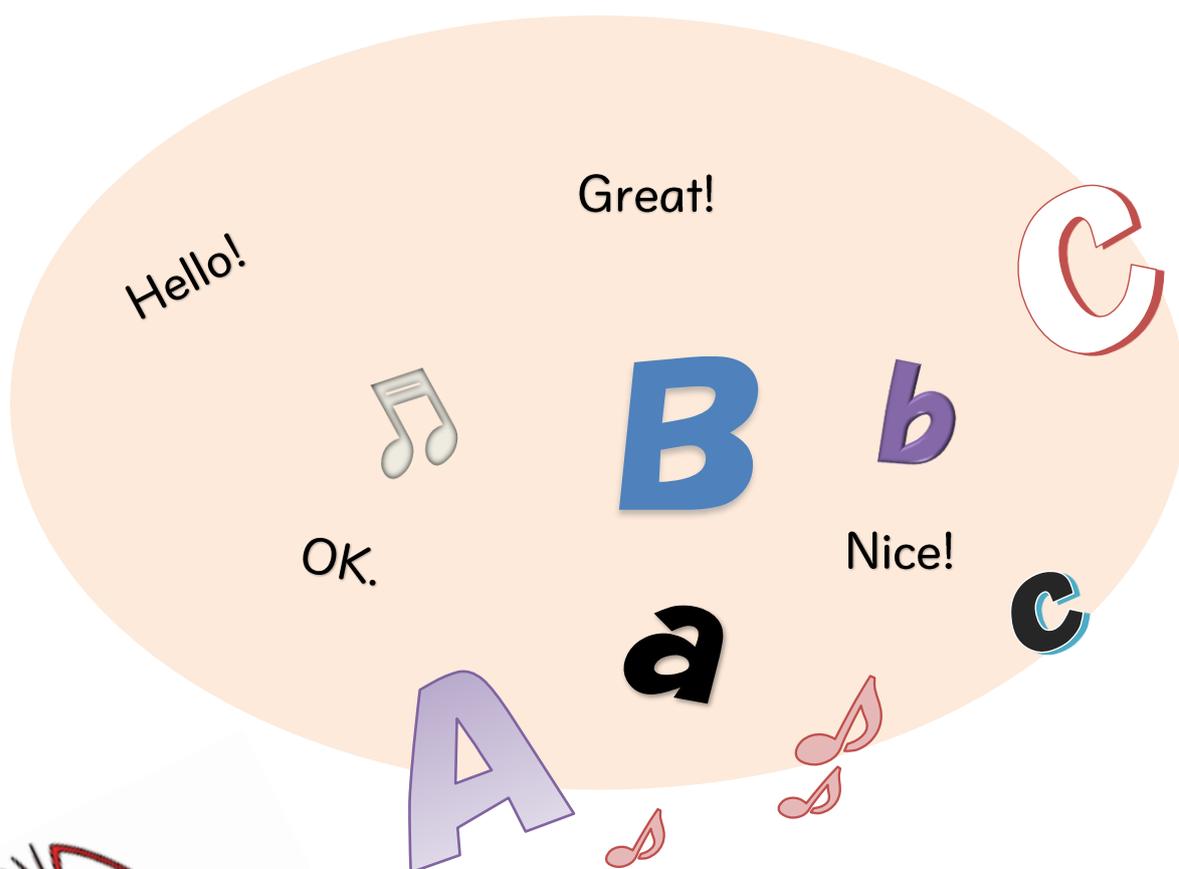


令和元年度

三重の英語教育改革加速事業
モデル校実践事例集



三重県教育委員会
小中学校教育課

はじめに

令和2年4月から、新学習指導要領が小学校において全面実施になります。これまで小学校中学年への「外国語活動」、高学年への「外国語科」の導入が円滑に行われるよう、移行期間において、各市町教育委員会、各小学校等でその準備が進められてきました。

一方で、小学校等の先生方からは、外国語教育の指導の在り方のほか、授業における「言語活動」の適切な設定や、外国語科における適切な評価等について、不安の声も聞かれました。

このことを踏まえ、県教育委員会としましては、今年度「三重の英語教育改革加速事業」にて、小学校1校をモデル校に指定し、国から配付された教材“**We Can!**”等を活用し、外国語によるコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することを目的として、小学校外国語教育の指導の在り方や評価についての研究を行いました。

本冊子では、モデル校での取組をもとにした、小学校外国語教育の在り方についての説明や、公開授業の指導案等を掲載しました。

本実践事例集を授業や研修会等で積極的に活用していただき、児童生徒が積極的に英語でコミュニケーションを図る力の育成を一層進めていただけるよう願っています。

令和2年3月
三重県教育委員会

<目次>

はじめに

I 新学習指導要領における小学校外国語活動、外国語科の授業づくり・・・1

皇學館大学 文学部コミュニケーション学科准教授 川村 一代

II 実践事例 ～令和2年度モデル校 津市立南立誠小学校の取組～

(1) 公開授業

My Dream is Your Dream～仲間と共に夢を描こう～【第6学年】・・・6

*事後検討会をもとに、公開授業当日の配付資料とは一部変更になっています

*吹き出しは、川村先生によるコメントです

(2) 資料

・Small Talk ポイント・・・16

・オリジナルチャンツ・・・17

・外国語活動の評価について・・・18

新学習指導要領における小学校外国語活動、外国語科の授業づくり

皇學館大学 文学部コミュニケーション学科准教授 川村 一代

はじめに

2020年4月からの新小学校学習指導要領全面実施に伴い、小学校3・4年生を対象に「外国語活動」が年間35時間、5・6年生対象に「外国語」が年間70時間実施されます。公立小学校で教科としての外国語（英語）が必修化されるのは、日本の歴史上初めてのことです。2020年度から開始される「外国語」は、2011年度より実施されてきた「外国語活動」と何が違うのか、新学習指導要領では、どういった指導が求められるのか、南立誠小学校の実践と照らし合わせながら、ポイントを確認していきましょう。

1. 外国語活動と外国語の目標

2020年度から全面実施となる新学習指導要領の「外国語活動」の目標の文末は、「～するようにする」と記述されています。2018年度から使用されている文部科学省の中学年用外国語教育教材の題名は『Let's Try!』です。『Let's Try!』という題名からは、「英語によるコミュニケーションを体験してみよう」「英語を聞いたり、話したりしてみよう」というメッセージが読み取れます。「外国語活動」では、「外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ」ことが培う資質・能力の一つとされています。

一方、「外国語」の目標の文末は、「～できるようにする」と記述されています。2018・2019年度の移行措置期間に使用されていた文部科学省の高学年用教材の題名は『We Can!』でした。教科としての外国語（英語）が学習される高学年では、「英語を使って○○できるようにする」ことが求められます。英語に慣れ親しむだけではなく、目的・場面・状況に応じて、既習語彙や表現を想起し、使えるようになること、つまり「語彙や表現の定着」が求められているのです。

なお、中学年用教材の『Let's Try!』は2020年度以降も使用されますが、高学年では、2020年度からは各自治体で採択された教科書が使用されます。



図1. 外国語活動と外国語の目標の違い

(第15回全国小学校英語教育実践研究大会三重大会研究紀要、2019より)

2. 学習のポイント

「外国語活動」では授業の最初に、学習のポイントとして「Listen carefully, Clear Voice, Eye Contact, Smile」などを意識して活動を行うよう指導してきました。これらのポイントは、英語だけでなく、日本語でコミュニケーションを図るときにも大切な、コミュニケーションの態度に関わるポイントです。教科「外国語」では、コミュニケーションを図る際の態度はもちろんですが、それに加えて、円滑にコミュニケーションを図るための言葉（英語）を使うことが重視されます（図2参照）。

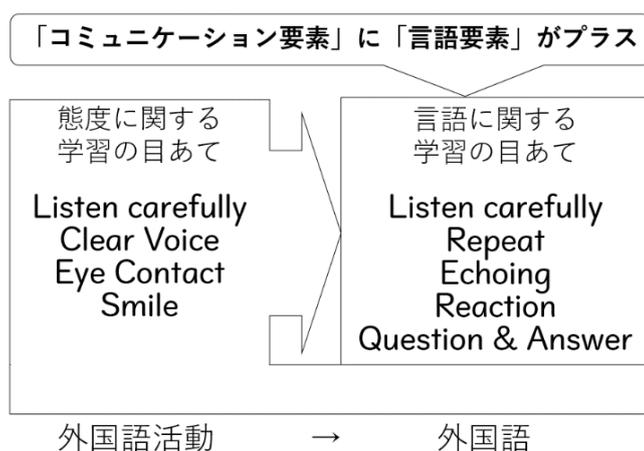


図2. 中学年と高学年の学習のポイント

相手の言ったことをそのまま繰り返す Repeat (A: Dogs are cute. B: Dogs are cute.)、一部を変えて繰り返す Echoing (A: I like dogs. B: You like dogs.)、相手の言ったことに反応する Reaction (A: I like dogs. B: Me, too.)、関連する質問をする Question & Answer (A: I like dogs. B: Do you have a dog?) など、コミュニケーションを円滑にする表現を授業の中で使いながら学びます。南立誠小学校でも、これらの表現が「English 5 Rules (指導案(2)指導について参照)」として毎回の授業で確認されています。「Small Talk ポイント」(p.16)にあるように、Small Talk でやり取りをする際にも、これらの表現を使うよう指導されています。

”Listen carefully”は、「外国語活動」でも「外国語」でも、さらに日本語でも英語でも一番大切なことです。コミュニケーションは相手の話を聞くことから始まります。相手の言ったことに反応することは、相手の言ったことを理解しているかどうかを相手に伝える方法でもあります。Repeat や Reaction は、3・4年生でもできます。中学年の授業でも、Repeat や Reaction を授業で、まず指導者が使い、相手の言ったことを繰り返したり、相手の言ったことに英語で反応したりするよう導きましょう。小学校を卒業するまでに、関連する質問ができるようになり、相手とのやり取りを何往復も楽しめるようになるといいですね。

3. バックワード・デザインの授業づくり

どこかに出かけるとき、まず目的地を定めます。そして、〇時までには目的地にたどり着くには、どのルートをどんな方法で行けばよいか計画を立てます。授業もそれと同じです。まず単元の最後には、児童にどんな姿になってほしいかを具体的に設定します。ゴールが設定できれば、そこにたどり着くため、何時目に何をどんな方法で学ばよいかは自ずと決まってきます。「英語を使って～できるようにする」ためには、最終的にどんなことをできるようにするのかを具体的に定め、そこから遡（さかのぼ）って授業計画を立てるバックワード・デザインによる授業づくり（図3参照）が効果的と考えます。

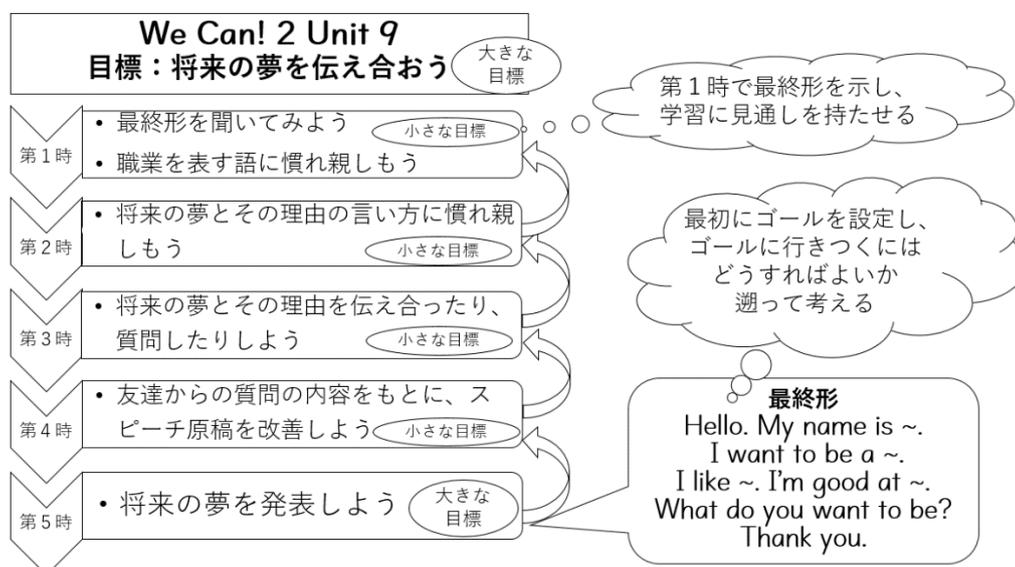


図3. バックワード・デザインの授業構成

南立誠小学校の授業実践では、第1時に指導者が「夢宣言」を実演して、児童に最終形を見せました。そして、この単元では「英語を使って将来の夢を語るができるようにする」のが単元目標（＝大きな目標）であることを明示し、児童と指導者が目標を共有しました。また、ワークシート（p.14）を配布し、単元ゴールにたどり着くまでの毎時間の目標（＝小さな目標）を「単元の流れ」として示しました。ワークシートには、本単元で学ぶ表現や語彙が載っており、本単元の学習内容を見通せるようになっています。語彙は綴りだけが示されていますが、イラストがあるとどんな児童にもわかりやすいでしょう。

目標と評価は表裏一体です。南立誠小学校の授業実践では、評価についてもバックワード・デザインで、児童が発表する前に評価基準（指導案(2)指導について参照）を知らせました。評価基準が具体的に示されると、児童はどこをどう改善させたらよいかのかわかり、主体的に学ぶようになります。しかし、あまりに細かい基準を設定したり、評価を強調したりし過ぎると、児童が委縮してしまいます。児童に評価基準を示すのは、改善や校正の目安や意欲を喚起して主体的学びを促進するためであることを忘れないようにしましょう。

4. Small Talk

小学校英語の教科化に伴い、Small Talk という言語活動が導入されました。『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』（文部科学省、2017）は、Small Talk を高学年で設定される活動であるとし、「2時間に1回程度、帯活動で、あるテーマのもと、指導者のまとまった話を聞いたり、ペアで自分の考えや気持ちを伝え合ったりすること」としています。Small Talk では、「既習表現の想起と活用」と「対話を続ける技術の習得」を目指します。

Small Talk は指導者の話を聞くことを中心とした「インプット型 Small Talk」と、児童同士ペアでやり取りを行う「アウトプット型 Small Talk」があります。新出語彙や表現に馴染みのない単元のはじめの段階では「インプット型」を、児童が語彙や表現に慣れてきた単元中盤や単元終了後は「アウトプット型」を行うとよいでしょう。指導者の話を聞くこと中心の「インプット型」であれば、中学年でも十分行えるのではないかと思います。

「インプット型」では、指導者は児童に聞かせたい、そして後に使わせたい語彙や表現を意図的に使って自分の話をします。その際、児童に問いかけるなどして、児童を巻き込みながら話を進めることが大切です。図4は「アウトプット型」の手順の三重バージョンです。

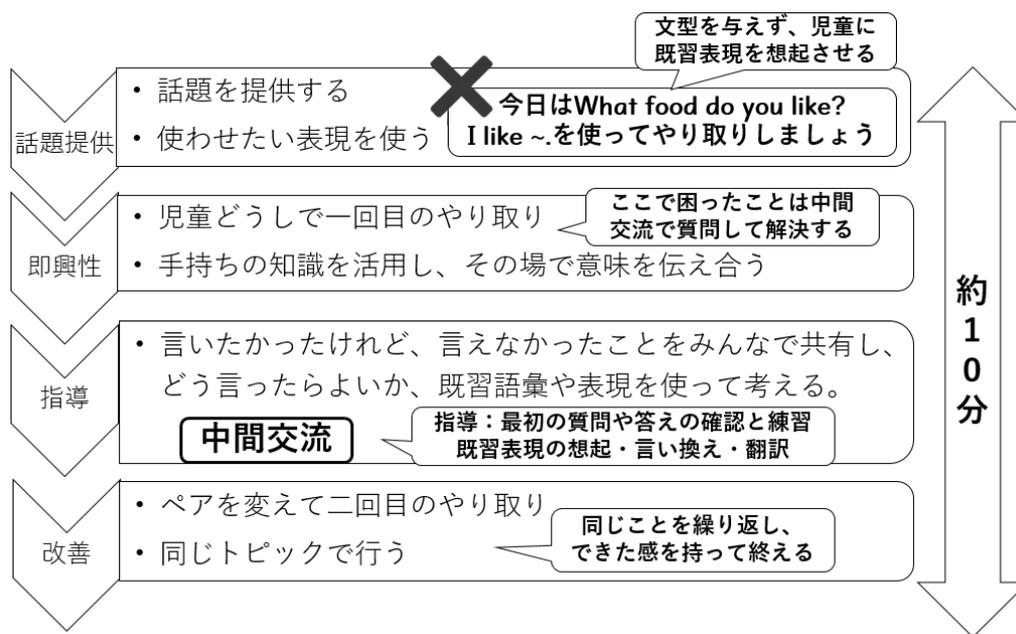


図4. Small Talk の手順 (三重バージョン)

まず児童に活動（一回目のやり取り）させ、その後の中間交流で指導が入ります。ここでの指導は英語の言い方がわからない時の対処法です。最初の質問や答え方がわからなかった児童にはこのタイミングで英文を与えましょう。既習表現を思い出して練習したり、工夫を凝らして手持ちの英語で表現してみたり、英語訳を教えてもらったり調べたりします。同じトピックで二回目のやり取りをし、一回目よりできた感を持って活動を終わります。

5. 文字の指導

新学習指導要領においては、3・4年生で「聞くこと」として、大文字・小文字が扱われます（図5参照）。「エイ」という音を聞いて、Aあるいはaという文字を指差すことが求められます。

5・6年生では「読むこと」「書くこと」として文字が扱われます（図5参照）。大文字・小文字が読め、活字体で書けるようになることは必須です。文や語句を書くことについては、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や表現を書き写したり、例文を参考に自分の気持ちや考えに合った語彙を選んで文に当てはめて書いたりします。何もないところに自分で考えた英文を書くのではなく、小学校段階では、音声で十分に慣れ親しんだ文や語句を、お手本を参考に書き写します。南立誠小学校の授業実践では、音声で十分に慣れ親しんだ表現を、毎時間少しずつワークシートに書きためていき、スピーチの原稿としていました。

なお、Aの名前読みは「エイ」で、音読みは「ア」といった、いわゆるフォニックスなどアルファベットの名前読みと音読みは、指導はするが、評価はしないことになっています。

領域	中学年	高学年
聞くこと	文字（大文字・小文字）の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかが分かるようにする。	Hi, friends! Plusも活用
読むこと		<ul style="list-style-type: none"> 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする。 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。
書くこと		<ul style="list-style-type: none"> 大文字・小文字を活字体で書くことができるようにする。また、語彙を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。

図5. 中学年と高学年の文字の扱い

「外国語活動・外国語の目標」の学校段階別一覧表 5つの領域別の目標（文部科学省、2018）をもとに作成

おわりに

領域である「外国語活動」から「外国語（英語）」という教科になると、上記で見えてきたように変わることがいくつかあります。しかし、英語を学習する目的は、英語を使ってコミュニケーションを図ること、つまり「内容を伝え合うこと」であることには変わりはありません。今まで小学校英語で大切にしてきた、児童が「わかりたい」「伝えたい」という思いを育む授業づくりを続け、児童が英語で伝え合えることが増えていくことを願ってやみません。

小学校外国語活動学習指導案

津市立南立誠小学校 第6学年

*事後検討会をもとに、公開授業当日の配布資料とは一部変更になっています
*吹き出しは、川村先生によるコメントです

- 1 単元名 My Dream is Your Dream ～仲間と共に夢を描こう～
教材名 「What do you want to be? 将来の夢・職業」(文部科学省 We Can!2 Unit8)

2 単元目標

注：2020年度から、～について言ったり「できる」という表記になります。

- ・自分や友達の将来についてまとまりのある話を聞きおおよその内容をとらえたり、自分が将来なりたい姿について言ったりする。【知識及び技能】
- ・将来就きたい職業やしたいこと、その理由などを伝え合う。また、将来の夢について、簡単な語句や基本的な表現で書かれた英語を推測しながら読んだり、例を参考に語と語の区切りに注意しながら書いたりする。【思考力、判断力、表現力等】
- ・他者に配慮しながら、将来の夢について伝え合おうとする。【学びに向かう力、人間性等】

注：2020年度から、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」という三観点で記述されます。

3 単元設定の理由

(1) 教材について

本単元は、将来の夢が題材である。“I want to be a ～.” “I’m good at ～.” “I can ～.”などの表現を用い、将来就きたい職業やしたいこと、その理由などを伝え合うことや、将来の夢について、簡単な語句や基本的な表現で書かれた英語を推測しながら読んだり、例を参考に語と語の区切りに注意しながら書いたりすることをねらいとしている。

本単元の最終目標は「夢宣言」で、将来の夢を伝え合うことである。しかし、将来の夢を単に「職業」に限定すると、児童にとって、決めることが難しかったり、決まっても恥ずかしくて言いにくかったりすることもあると考えられる。そこで、将来の夢を伝える際は、「職業」だけでなく「目指す生き方」を語ってもよいとしたい。そうすることで、より具体的に、児童一人ひとりの将来の「夢」に迫れるのではないかと考える。

また、高学年という発達段階において、児童は、自分のよさや自慢できることをはっきりと口にすることを苦手とする傾向もみられるが、このことは、様々な国の人々と理解し合う上で、弊害になってしまう場合もある。将来の夢について友だちと伝え合い、友だちの考えを知ったり、自分の考えを整理したりしながら、グローバル化が進む社会において、児童たちに自分のよさを自覚し、そのことをはっきりと表現できることが大切であることを気付かせたい。

本学級では、2学期より、総合的な学習の時間において、『仲間と共に夢を描こう』というテーマでキャリア教育を進めてきた。講師を招きドリームマップを作成したり、仕事のやりがいや内容に触れたりしてきた。学習を進める中でどんな仕事も周りにつながっていることに気付き、仲間と支え合う大切さ

を知ることができた。そして、その内容を全校集会で発表した。本単元は、総合的な学習の時間で学んできたことと関連させながら進めていくため、単元名を『My Dream is Your Dream～仲間と共に夢を描こう～』とした。

「夢宣言」は、小学校外国語活動の総まとめとしての役割を担っていると考えられる。これまで学んだ表現を使ったり、コミュニケーションのポイントを意識したりしながら、取り組ませていく。そして、「夢宣言」をすることで、総合的な学習の時間での学びをさらに深め、堂々と中学校へ進んでいく姿を期待したい。

他教科や学校行事等と関連させた授業ができるのは、全教科を担当が教える小学校ならではの利点です。教科化しても、この視点は忘れずに活かしていきたいものです。

(2) 指導について

既習事項を活用してよりわかりやすい自分の夢宣言をすることを大きな目標に、毎時間の小さな目標に取り組んでいきたい。教師と児童、児童と児童がつながり、高め合いながら、大きな目標に近付かせたい。そのために、既習事項の想起、English 5 Rules を意識させていく。English 5 Rules とは、以下のものである。これらを基本として様々な言語活動を仕組んでいく。

Listen carefully
Reaction
Repeat
Echoing
Question

English 5 Rules は、
授業の中で意識して
実践しましょう。

第一時では、単元と出会う。授業者によるモデルを見せたり、単元の流れや語彙、最終目標を見通すことができるワークシートを配布したりする中で、単元終わりで行う夢宣言を児童に具体的にイメージさせたい。夢宣言に用いる英文は、We Can! 2 p.62にあるものを基本とし、以下のようにする。英文は、毎時間少しずつワークシートに書き溜めていき、夢宣言までに完成するようにしていく。

Hello. My name is~.
I want to be ~. (具体的な職業の場合) / I want to ~. (生き方の場合)
I like ~. / I am good at ~. (理由)
What do you want to be? (問いかけ)
Thank you.

これが最終形となります。
最終時にこういうことが言えるように指導をしていきます。

上記のターゲット・センテンスに慣れ親しませるため、We Can! 2 Unit 8 のチャンツを参考に児童の就きたい職業等を取り入れたオリジナル・チャンツ (p.17) を作成し、毎回の授業で使用する。

第二時では、将来の夢、したいこと、その理由などについて、教科書に設定されている活動をもとに、音声から慣れ親しんでいく。ここでの英文が夢宣言の軸となるので、丁寧に押さえない。

第三時では、夢宣言に向けてグループでスピーチの練習や交流を行う。観点は、「発表の内容」と「発表の態度」とする。ここでは、スピーチの評価基準を児童に明確に示すこととする。

SはSuperで、児童のやる気を掻き立てるために設定されました。
評価はAになります。

数字や程度（下線部）は、各校で児童の状況に合わせて設定しましょう。

	内容	伝え方	
		声、スムーズさ	目線、態度
S	・将来の夢について発表し、その理由を <u>3つ以上</u> 言っている	・みんなに聞こえる声で、 <u>はっきりと、スムーズに</u> 言える	・ <u>原稿を見ず</u> 、相手に目を合わせながら、表情豊かに言える
A	・将来の夢について発表し、その理由を <u>2つ</u> 言っている	・みんなに聞こえる声で、 <u>はっきりと</u> 言える	・ <u>ところどころ</u> 原稿を見ながらも、聞き手に目を合わせながら言える
B	・将来の夢について発表し、その理由を <u>1つ</u> 言っている	・ <u>聞こえにくい時があるが</u> 、最後まで言える	・ <u>半分以上</u> 原稿を見ながら話している
C	・将来の夢について発表しているが、その理由は一つも言えない	・最後まで言えない ・何と言っているか聞こえない	・聞き手を見ず、ずっと原稿を見ながら話している

<皇學館大学 川村一代准教授のチェックシートを参照>

ここでは、評価にこだわりすぎるのではなく、あくまでも目的は伝え合うことにあるということを意識させたい。児童は交流を二度行い、一回目は同じグループの友達のスピーチの良い点を伝えたり質問をしたりする。二回目は、一回目の交流をもとに、英文をつけ足すなど工夫をする。スピーチの練習を通して児童が「伝え合う」経験を積むことができるようにしたい。またより良いスピーチのために English 5 Rules を意識させたい。ここでは、交流の中ですべての児童が主体的に取り組めるよう、英語が得意なら新たな英文を付け足す、苦手ならば間違えずに言い切るなどそれぞれ目標をもって取り組ませ、一人ひとりが「英語でコミュニケーションをとれた」という達成感を味わえるようにしたい。

第四時では、これまでワークシートに書き溜めてきた英文を、一枚のスピーチ原稿へ書き写す。丁寧に、語と語の区切りを意識して正しく書かせたい。その上で、第三時の友達との交流の中で気付いた改善点を反映させて原稿を完成する。

第五時では、いよいよ「夢宣言」としてスピーチをする。配布されている評価基準を確認し、自分の思いや考えを伝えられるようにしたい。そして外国語活動でのコミュニケーション体験が、他教科や生活の場面に生きて働くことを願う。

4 評価規準（2019年度は移行期間のため、現行3観点に読み替えて評価を行う）

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語への慣れ親しみ	言語や文化に関する気付き
他者に配慮しながら、将来の夢について伝え合おうとする。	自分や友達の将来についてまとまりのある話を聞いておおよその内容をとらえたり、自分が将来なりたい姿について言ったりする。	将来の夢について簡単な語句や基本的な表現で書かれた英語を推測しながら読んだり、例を参考に語と語の区切りに注意しながら書いたりする。

5 単元指導計画（全5時間）

時	目標◆ と主な活動（○）誌面化されている活動（【 】）	◎評価〈方法〉
1	◆単元の流れと最終目標を知り、将来の夢を表す表現を聞いたり言ったりする ○Small Talk ○ワークシートから、単元の流れと最終目標を知る ○p.58、p.59の絵からわかることを交流する ○ オリジナル・チャンツ ○ 【Let's Watch and Think】 p.59 ○ 【Let's Play】 p.59	◎将来の夢を表す表現に慣れ親しみ、聞いたり言ったりしている ＜行動観察・記述分析・ふり返しカード点検＞
2	◆将来就きたい職業やしたいこととその理由について、聞いたり言ったりする ○Small Talk ○オリジナル・チャンツ ○ 【Let's Watch and Think 2】 p.60 ○ 【Let's Listen】 p.61 ○Activity	◎友達と、将来の夢について伝え合っている ＜行動観察・記述分析・ふり返しカード点検＞
3 (本時)	◆交流を通して、スピーチの内容や仕方を工夫しよう ○Small Talk ○オリジナル・チャンツ ○グループ学習 ① 友達に Good Points を伝え、もっと知りたいことを質問する ② スピーチの内容や仕方を工夫する ○グループ活動を通して学べたことを交流する	◎交流を通して、スピーチの内容や仕方を工夫している ＜行動観察・記述分析・ふり返しカード点検＞
4	◆「夢宣言」で自分の考えがより伝わるようスピーチを改善する ○Small Talk ○オリジナル・チャンツ ○ 【Let's Read and Write 1】 p.62 ○ 【Let's Watch and Think 3】 p.60	◎英文を正しく書き写し、相手により伝わりやすくなるよう改善したスピーチ原稿を完成させる

	○これまでに書いてきた文を参考に、ワークシートへ書く	<記述分析・ふり返りカード点検>
5	◆「夢宣言」をし、友達と将来の夢を伝え合う	
	○Small Talk ○オリジナル・チャンツ ○「夢宣言」を、一人ずつ、全員の前でする ○スピーチを振り返る	◎相手に自分の思いを伝えるという目標をもって、将来の夢について言ったり聞いたりする <行動観察・記述分析・ふり返りカード点検>

6 言語材料

○What do you want to be? I want to be a (vet). I like (animals). I can (play the piano well). I am good at (playing the piano). That's (good). Good luck.

○be, luck, future, 職業(artist, astronaut, baker, bus driver, comedian, dentist, farmer, figure skater, flight attendant, pianist, pilot, singer, train conductor, zookeeper), chalk

【既出】職業, 動作, 動詞の過去形(went, ate, saw, enjoyed, was), スポーツ, 動物, 飲食物, 状態・気持ち, 身の回りの物, 教科

7 本時の指導 (3 / 5)

○目標 交流を通して、スピーチの内容や仕方を工夫しよう

○本時の指導 (4 5分)

活動時間	児童の活動	指導者 (T) の活動と使用英語例 ◎評価 (方法)	
		学級担任 (T 1)	ALT (T 2)
3分 3分 10分	1. あいさつ 2. オリジナル・チャンツ 3. Small Talk	・あいさつをする ・オリジナル・チャンツを流す	・あいさつをする

ALT: What is your dream?
 HRT: I want to work hard.
 ALT: Oh, what do you want to be?
 HRT: I want to be a great teacher.
 ALT: Good luck!
 (Switch the roles. Repeat.)
 HRT: How about you? What do you want to be?
 ALT: I want to be a zookeeper. I like animals.
 HRT: Do you like penguins?
 ALT: Yes, I do.
 HRT: (To the students.) Do you like penguins?
 (To the ALT.) Why do you like penguins?
 ALT: Penguins are very cute.
 HRT: That's nice!
 (To the students.) Let's talk about your dream. Make pairs. Let's start!

・ペア活動 1 回目

HRT と ALT は、机間指導をし、適宜声掛けをする

・中間交流

・言いたかったが言えなかったことなどを尋ねる
 ・言いたいことが英語で言えるよう支援する

・児童の考えた英語が正しいかチェックする

・ペア活動 2 回目

HRT と ALT は、机間指導をし、適宜声掛けをする

・1 回目の活動より改善しているかチェックする

・1 回目の活動より改善しているかチェックする

4. Activity

8 分

①ALT のスピーチを聞き、活動の流れを確認する

・ALT に Good Points を伝え、もっと知りたいことを質問する

・児童から Good Points や質問が出にくければ、HRT がする

・スピーチをする

Hello. My name is Matthew.
 I want to be a zookeeper.
 I like animals.
 What do you want to be?
 Thank you.

Good Points

- ・コミュニケーション要素 (Clear voice, Good eye contact, Nice smile, ジェスチャーなど)
- ・言語要素 (内容、情報量など)

	<p>②Group work</p>		
<p>6分</p>	<p>③中間交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ALT のスピーチの内容を改善するため、質問をする <p>※予想される質問</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆Do you like penguins? ☆Do you like rhinos? ☆Do you like giraffes? ☆Where do you want to go? ☆Why? <p>・友達との交流で尋ねる質問の表現を確認する</p>	<p>・ALT のスピーチの内容を改善するため、質問するよう言う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の質問からスピーチの内容をつけ足したり、文の順序を整理したりしていく ・ポイントを整理する <p>☆伝え方の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆自分の言いたいことを付け加える ☆内容を整理する (文の順番を変えてみるなど) <p>・交流に使えるような質問を整理する</p>	<p>HRT と ALT は、机間指導をし、適宜声掛けをする</p> <p>・児童の質問を受け、スピーチの内容を工夫する</p> <p>工夫後の例</p> <p>Hello. My name is Matthew. I want to be a zookeeper. I like animals. I like penguins, rhinos, and giraffes. They are cool and cute. I want to go to Africa. You can see many animals there. What do you want to be? Thank you.</p> <p>・質問の表現の見本を示す</p>
	<p>④Today's Goal</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を確認する 	<p>交流を通して、スピーチの内容や仕方を工夫しよう</p>	

- 交流は4分とする
- ①発表者が話す
 - ②発表者の右隣の人から時計回りで Good Points を伝え、もっと知りたいことを質問する
 - ③発表者は質問に答える
 - ④次の発表者に移る (①へ戻る)

HRT と ALT は、机間指導をし、適宜声掛けをする

- ※予想される質問
- ☆Do you like penguins?
 - ☆Do you like rhinos?
 - ☆Do you like giraffes?
 - ☆Where do you want to go?
 - ☆Why?

- ☆伝え方の工夫
- ☆自分の言いたいことを付け加える
- ☆内容を整理する (文の順番を変えてみるなど)

- ☆Do you like~?
- ☆Can you~?
- ☆What is this?
- ☆Do you want to be ~?
- ☆Why~?
- ☆Where do you want to go?

10分	<p>⑤Pair work</p> <p>交流は1ペア1分30秒とする ☆工夫できそうな点はどんどんスピーチに取り入る</p> <p>①黒板に向かって左側の人から発表する ②発表者は、スピーチが終わったら“Questions, please!”と言う ③聞き手は質問をする ④発表者は質問に答える ⑤発表者と聞き手を交代する(①へ戻る)</p> <p>☆時間に余裕があれば、どんな工夫ができるか pair で相談し合う</p>		<p>HRTとALTは、机間指導をし、適宜声掛けをする</p> <p>◎交流を通して、スピーチの内容や仕方を工夫している<行動観察></p>
5分	<p>5. まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業を通しての自分の変化を確認し合う ・ふり返りカードを書く 	<ul style="list-style-type: none"> ・数名の児童を指名し、スピーチの変化を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつをする
	<p>6. あいさつ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつをする 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつをする

8 板書計画

Unit8 My Dream is Your Dream ~仲間と共に夢を描こう~

Today's Goal: 交流を通して、スピーチの内容や仕方を工夫しよう

Hello. My name is~.

I want to be ~. / I want to ~.

I like ~. / I can
(I am good at~.)

What do you want to be?

Thank you.

I want to be a zookeeper.

I like animals.

I like penguins.

I like penguins, rhinos, and giraffes.

They are cool and cute.

I want to go to Africa.

You can see many animals there.

What do you want to be?

Thank you.

スピーチ工夫のポイント

①伝え方を工夫する

②文を足す

③内容を整理する
(文の順番を変えるなど)

質問に用いるとよい表現

☆Do you like~?

☆Can you~?

☆What's this?

☆Why~?

☆Do you want to be ~?

☆Where do you want to go?

Unit8 My Dream is Your Dream ～仲間と共に夢を描こう～

Grade : Class : Name :

GOAL:将来の夢を伝え合おう!

Hello. My name is ～.

<単元の流れ>

- ① 職業の言い方に慣れ親しもう
- ② 理由の言い方を学ぼう
- ③ グループで交流しよう
- ④ 原稿の清書をしよう
- ⑤ 夢宣言をしよう



<Key Sentences>

- ☆What do you want to be?
- ★What is your dream?

- ☆I want to be a(an)～.
- ★I want to～.
- ★★I want to be～.

- I like～.
- I can～ (I am good at～.)
- I study hard.
- I practice hard.

- ◎That's good!
- ◎Good luck!

What do you want to be?

Thank you.

Dreams

- | | | |
|------------------------|------------------|---------------------|
| ☆hair stylist | ☆vet | ★never give up |
| ☆marine animal trainer | ☆soccer player | ★challenge anything |
| ☆fire fighter | ☆illustrator | ★ride horses |
| ☆basketball player | ☆system engineer | ★go abroad |
| ☆teacher | ☆doctor | ★eat food |
| ☆singer | ☆song writer | ★★myself |
| ☆interpreter | ☆singer | ★★healthy and happy |
| ☆company's president | | |

外国語活動ふり返しカード 年 組 番 名前

月 日 ()

Today's Goal

--

English 5 Rules	◎	○	△
Listen carfully (よく聞く)			
Reaction (反応する)			
Repeat & Echoing (繰り返す)			
Question & Answer (質問する)			

Small Talk	◎	○	△
相手の言ったことをくり返すなどして反応できたか			
相手に質問できたか			
一言感想が言えたか			
英語での会話を楽しめたか			

将来の夢について	◎	○	△
Good Pointsを意識して話すことができたか			
将来の夢をクラスの友達に詳しく伝えられそうか			
将来の夢についてクラスの友達と伝え合いたいと思うか			

スピーチの工夫について

①スピーチを工夫するために、積極的に交流できたか

②自分のスピーチで、どんなことを工夫できそうか

※スピーチに付け加えや変更があればここにメモしておこう

Small Talk ポイント ～英語を使って、3往復以上会話を続けよう～

①対話の開始 テーマを確認し合おう

“Hello. How are you? Let’s talk about ○○!”

②繰り返し Repeat や Echoing で、あいづちをうとう

(相手) “I like baseball.”

(自分) “Oh, you like baseball!” など

③確かめ 質問の内容がわからなければ、確かめよう

“Excuse me?” “Pardon me?” “Say that again!” など

④ひと言感想 Reaction で、内容を理解していることを伝えよう

“That’s nice!” “Really?” “Sounds good!” “No way!” など

⑤さらに質問 Question & Answer で、よりくわしく知ろう

(相手) “I like sport.”

→ (自分) ☆What sport do you like?
☆Do you like baseball?
☆Can you play soccer?
☆Why do you like this sport?
など

☆Do you like～?
(好きなものを聞く)
☆Can you ～?
(できるかどうか聞く)
☆Why～?
(理由を聞く)
→Because～.で答えよう!
☆What ○○ do you like?
(好きな○○を聞く)

⑥対話の終了 気持ちよく終わろう

“Thank you very much.” など

【南立誠小学校 オリジナルチャンツ】

♥ Our Dreams 

1

What do you want to be in the future?

I want to be a dancer.
I can dance well.



2

What do you want to be in the future?

I want to be a writer.
I like reading and writing.



3

What do you want to be in the future?

I want to be a cook.
I can cook well.



4

Switch!

5

"What is your dream?"

6

Ready, set, go!

7

What is your dream?

I want to be healthy and happy.
I like video games.



8

What is your dream?

I want to go abroad.
I like English!



9

6年生1学期 外国語活動の評価について

*移行期間のため、教科化を見越して、試験的に実施した

評価の観点：コミュニケーションに対する関心・意欲・態度

<実施方法>パフォーマンステストを実施する。

児童を一人ずつ廊下へ呼ぶ。待機児童は We Can!の Let's Read and Write など書く活動をする。

①ALT が以下の質問をする。

☆How are you?

☆What's your name?

☆When is your birthday?

☆What ○○ do you like? (sports, animals, fruits, colors)

☆When is your birthday?

☆Do you have any questions?

(可能ならば、児童から ALT に質問する。)

②担任は評価を記入する。

6年 組 番 学期 (名前)

	A	B	C	Memo
1 声の大きさ				
2 目線				
3 積極性 (粘り強く、英語を使用しようとしている)				

6年生2学期 外国語活動の評価について

*移行期間のため、教科化を見越して、試験的に実施した

評価の観点：外国語への慣れ親しみ（文法、語彙、発音）

<実施方法>パフォーマンステストを実施する。

児童を一人ずつ廊下へ呼ぶ。待機児童は We Can! の Let's Read and Write など書く活動をする。

①児童は ALT に日本の行事・食べ物・伝統的な遊びについて言い、それらについて ALT が質問をする。

☆We have (行事) in (季節)

☆We have (食べ物) in Japan. It's (味)

☆We have (伝統的な遊び) in Japan. I like ○○→Why?

I don't like ○○→Why not?

②担任は評価を記入する。

6年 組 番 学期 (名前)

	A	B	C	Memo
1 声の大きさ				
2 目線				
3 文・語の適切さ				